

MOVE YOUR HEART!

進路通信第4号

7月です。一昨日の土曜日は普通科で3学年そろっての模試でしたね。そして今日から求人票の受付が始まりました。進学希望の人にも、就職希望の人にも大事な行事でスタートしました。

3年生のみなさん、4月に担任の先生と面談し、先日進路希望調査をしたと思ったら、もう保護者懇談です。まっすぐな気持ちで具体的な進路目標を語れる人ばかりではないにしても、自分のこととして目標を提示できるようになっていますか。就職希望の人はじっくり求人票を検討してください。たくさんの優良企業が武義高生を求めています。

2年生のみなさん、夏の計画は立てつつありますか。勉強や部活や個人で取り組む活動など、いろいろなことができますが、進路についても何らかの行動をしてください。オープンキャンパスや、ボランティア活動への参加はこの時期に是非行ってほしいものです。近隣の学校のオープンキャンパスが一覧になった冊子を全校生徒に配布しますので参考にしてください。

1年生のみなさん、初めての校外模試はいかがでしたか。出来、不出来よりもまずは手応えを感じてください。そして復習が大事です。模試で実力をつけることを考えてください。授業進捗の関係で習っていない範囲の問題もあったかと思います。順位や偏差値を気にするのはしばらく後でかまいません。数字はあくまで目安。模試は「これから」の指針にしましょう。

《当面の進路に関する行事》

- 7 / 3 (月) 求人受付開始
- 13 (木) ~ 20 (木) 保護者懇談会・午前授業 3年夏季補習①
- 21 (金) 終業集会
- 24 (月) 就職ガイダンス 24 (月) ~ 26 (水) 3年夏季補習②
- 27 (木) 学校祭クラス活動優先日
- 8 / 2 (水)、3 (木) 武義高オープンキャンパス
- 4 (金)、5 (土) 3年第2回全統共テ模試
- 18 (金) 学校祭クラス活動優先日
- 21 (月) 中濃法人会による就職面接指導
- 23 (水) 就職校内推薦会議
- 24 (木) 始業集会
- 25 (金) 指定校推薦開示
- 26 (土) 3年第2回全統記述模試

《オープンキャンパスについて》

コロナ禍の影響が薄まり、対面型のオープンキャンパスが本格的に再開されました。案内冊子やポスターが進路にもたくさん届いています。前述のとおり一覧冊子は全校生徒に配布します。参加する際に気をつけてほしいことなどをアドバイスします。参考にしてください。

まず、いい加減な気持ちで行くことはやめましょう。動機は「なんとなくおもしろそうだから」でもいいし、「友達に誘われたから」でもいいのですが、参加する以上は「この学校に行くんだ」「行きたいんだ」という思いをもちましょう。学校側は万全の準備で受け入れてくれます。学生と

してのプライドを忘れないように。

なにかを得て帰りましょう。「まあまあおもしろかった」ではレジャーランドと同じです。実際のキャンパスの雰囲気、在学生や教授とのふれあい、模擬講義などで感じたことから自分にとってのプラスマイナスを評価しましょう。できれば質問もしましょう。聞かなければわからないことがあるはず。素晴らしい設備があっても「300人に1台」かもしれないし、「2年間で1回」かもしれません。HPやパンフレットには記載されていないことを尋ねる絶好のチャンスです。変なことを聞いてもそのせいで不合格になることはありません。それどころか「意欲的な子がいる」と印象づけることができますよ。聞きにくい質問こそ大事なのです。

保護者といっしょに参加、友達同士で複数の学校に参加、旅行を兼ねて遠い大学に行ってみる、などいろいろなやり方があります。オープンキャンパスの日でなくても大丈夫です。「キャンパス見学を含めて宿泊を伴った旅行を単独で」というのが個人的には好きです。

《雑感》

国語表現の教科書に「すべての情報は編集されている」という池上彰の文章がある。

実際にたとえば「本学では入試の成績で上位10%の学生には授業料を免除する制度があります」という場合、受験者の上位なのか、合格者の上位なのか、入学手続きをした人の上位なのか、実際の入学者の上位なのか、ですいぶん違って来る。

先日こんな記事を見た。「マイナンバーカード情報のことで13万人がよくない影響を受けていることがニュースになっているが、登録をしている総数における割合は0.24%である（その記事の時点で）」という指摘だ。報道する側はどちらの数値を採用してもかまわないが、受ける印象は大きく異なる。批判を受ける側には弱みがあって、「割合はこんなに小さいからいいじゃないか」とは絶対に言えない（言えば炎上する）。コロナ禍のころ、学校関係でもこれと似た報道がされた。あるよくないことがニュースになった際、「県内では80%の学校でこうした事例があるということです。」という具合だ。たとえば500人の学校が20校あったとして、その「事例」が16の学校で合計18人に起きたとする。総数は18人で、全生徒の0.18%だが、確かに「80%の学校で起きている」といえる（0.18%だからいいでしょ、ということが言いたいのではない）。総数が示されたら割合を、割合が示されたら総数を、さらにはデータの分子分母を確かめる慎重さが大切だろう。数字は嘘をつかない。がすべてを映しているわけではない。

《おまけ》

私自身も役目柄、上級学校の入試説明会に赴くことがある。その際に心がけていることがある。

- *その1 本学に行く。説明会には近場の会場が設定されることも多いが、出来れば本学へ出向くようにしている。キャンパスの場所、雰囲気、施設設備の状況を知ることが出来る。そして早めに行ったり、説明会の後残ったりしてキャンパス内を歩くようにしている。
- *その2 学生と話す。会場となる教室の場所を尋ねたついでに、「学校はどうか」などと聞いてみる。在学生の生の声は貴重である。思わぬ「発見」がある。（ただしこういうご時世なので、「怪しいおじさん」に見られないように気をつけている。）
- *その3 トイレを利用する。端的に学校の良さが表れていたりする。

大学イノベーション研究所所長の山内太地さん（2,3年生の人は進路講演会で話を聞いたよね）の「日本のすべての大学を訪問した」には遠く及ばないが、私も結構な数のキャンパスを訪れていて、その経験は有形無形に役立っているように思う。